

論子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association of the incidence of atopic dermatitis until 3 years old with birth month and with sunshine duration and humidity in the first 6 months of life: Japan Environment and Children's Study

和文タイトル:

生まれ月・出生地の日照時間・湿度と生後6ヶ月から3歳までのアトピー性皮膚炎発症率との関連について:エコチル調査

ユニットセンター(UC)等名: 甲信ユニットセンター

サブユニットセンター(SUC)名: 山梨

発表雑誌名: BMJ Open

年: 2021 DOI: 10.1136/bmjopen-2020-047226

筆頭著者名: 横道 洋司

所属 UC 名: 甲信ユニットセンター

目的:

本研究の目的は、生まれ月・出生地の日照時間・湿度と、生後6ヶ月から3歳までのアトピー性皮膚炎発症との関連を調べることである。

方法:

エコチル調査に参加した100,304人について、生後6ヶ月から3歳までの累積のアトピー性皮膚炎の発症率を測定した。まず生まれ月と発症率の関連を調べた。次に気象庁の公開情報をもとに、出生地での生まれ月から6ヶ月間の日照時間・湿度の平均値と発症率の関連を調べた。これらの関連の分析には、カプラン・マイヤー推定、コックス比例ハザードモデルによる生存時間分析を用いた。

結果:

10月から12月生まれで最もアトピー性皮膚炎の発症率は高く、4月から6月生まれで最も低かった。コックス比例ハザードモデルによると発症率と最も関連していたのは母親のアレルギー性疾患の既往だった(ハザード比=1.69, 統計学的に有意)。10月から12月生まれであることは、4月から6月生まれであることに比べて、アトピー性皮膚炎の発症リスクが高かった(ハザード比=1.20, 統計学的に有意)。生後6ヶ月間の日照時間と湿度について、アトピー性皮膚炎の発症リスクとの関連は明らかでなかった。

考察(研究の限界を含める):

秋から冬生まれでアトピー性皮膚炎の発症率が高いことは海外で報告がある。皮膚の乾燥と痒みはアトピー性皮膚炎の大きな誘因であり、また紫外線照射は重症のアトピー性皮膚炎の治療法の一つである。気象庁のデータと照合して解析したところ、日照時間・湿度とアトピー性皮膚炎発症との関連は明らかでなかった。また、生まれた月を基準にしたアトピー性皮膚炎の累積発症率の順位は、生後6ヶ月から3歳までほとんど入れ替わらなかったことから、生後6ヶ月までに疾患の発症リスクが固定されている可能性が示された。本研究の限界は、医師によるアトピー性皮膚炎診断の有無を、両親の調査票への記入により調査したことである。

結論:

日本では10月から12月生まれであることが生後6ヶ月から3歳までのアトピー性皮膚炎の発症リスクと関連があった。生後6ヶ月までの日照時間と湿度はアトピー性皮膚炎の発症との関連がなかった。アトピー性皮膚炎発症に関連する環境要因についてさらに研究が必要と考えられた。